

受講生を対象にした初年次セミナーに 関するアンケート調査報告書



平成28年3月23日
教育推進・学生支援機構
学修支援部門・初年次教育担当会議

目 次

1. はじめに	1
2. 調査の目的	2
3. 調査方法	3
4. 調査結果	6
1) 教育学部における調査結果	6
2) 地域科学部における調査結果	12
3) 工学部における調査結果	17
4) 応用生物科学部における調査結果	25
5) 全体の集計結果	28
5. 今後の初年次セミナーのあり方について	34
1) 役に立ったのは、どのような実施内容か？	34
2) 初年次セミナーに欠かせない内容とは何か？	35
3) 実施内容の適否を判断することの難しさ	36
4) まとめ	37
6. 参考資料	39
7. おわりに	43

1. はじめに

学修支援部門・初年次教育担当会議では、全学共通教育科目として開講されている「初年次セミナー」のあり方について検討を進めてきた。平成26年度は、セミナーを担当されている教員の方々に本セミナーの講義内容についてアンケート調査を実施した^{*1}。その結果、本セミナーの内容については各学部で創意・工夫がなされ、成果があげられているものの、①セミナーで教授すべき目的や内容に曖昧な面がある、②高大転換教育として能動的な学びへ誘う講義内容を取り入れる必要がある、③本セミナーで実施すべき内容と1年次のガイダンスにおいて実施すべき内容が混在している、④成績評価の基準が曖昧である、など現状における問題点も明らかとなった。

全学共通教育科目については、各学期の最後に学生による授業評価アンケートが実施されており、その結果が各担当教員にフィードバックされている。しかし、初年次セミナーに関しては、全学共通教育科目でありながら、このような授業評価アンケートは実施されていなかった。そこで、学修支援部門・初年次教育担当会議では、27年度に受講学生（1年生）を対象に講義内容に関するアンケート調査を企画、実施し、その調査結果および26年度に実施したアンケート調査結果を合わせて本セミナーのあり方について議論したいと考えた。また、これまでのアンケート調査結果に基づいて議論した内容を広く教員に知ってもらい、セミナーの今後のあり方について議論を深めるためにFDを企画し、開催した（「どうする！？ 初年次セミナー」、平成28年2月3日開催、参考資料1）。

学修支援部門・初年次教育担当会議

^{*1}：岐阜大学・学修支援部門のホームページに報告書が掲載されています。

(https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/learning_supporting/ALS_report/report.html)

2. 調査の目的

全学共通教育科目として開講されている「初年次セミナー」のあり方について検討するため、受講学生（1年生）を対象とした授業評価アンケート調査を実施し、今後のセミナーのあり方について議論するための基礎情報を得ることとした。調査内容は以下の5項目とした。

アンケート調査内容：

- ① 初年次セミナーの内容のうち、学生が実際に受講した授業内容について、それぞれ5段階評価を実施した。
- ② 初年次セミナーを受講したことが、高校までの勉強のスタイルから大学での学修へと転換することに役立ったかどうか調査した。
- ③ 初年次セミナーに欠かせないと思われる授業内容を調査した。
- ④ 初年次セミナーは総合的に満足のものだったかどうか調査した。
- ⑤ その他意見・要望について調査した。

3. 調査方法

各学部のセミナー担当者、あるいはコーディネーターの先生方にアンケート用紙（下記参照）を送付し、調査実施を依頼した。なお、医学部については、本アンケート調査を依頼した時期にはすでにセミナーが終了しており、今回の調査は実施しなかった。

授業内容の評価では、「非常に役立った（あるいは、大変満足）」、「役立った（あるいは、おおむね満足）」、「どちらともいえない」、「役立たなかった（あるいは、やや不満）」および「まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）」の5段階選択肢を設定した。

27年度初年次セミナーに関するアンケート用紙

岐阜大学教育推進・学生支援機構 学修支援部門

「初年次セミナー」は、高校までの勉強のスタイルから、大学で求められる能動的な学修へのスムーズな転換を目的とした科目です。このアンケートは、「初年次セミナー」の内容を今後さらに良くするために1年生を対象に実施します。以下の項目について、あなたが感じることをそのままにお答えください。各項目の評価については、次の5段階で評価してください（1～5の数字を評価欄に記入してください）。

大学生にふさわしい学び方を身につけるうえで、

5＝非常に役立った（あるいは、大変満足）

4＝役立った（あるいは、おおむね満足）

3＝どちらともいえない

2＝役立たなかった（あるいは、やや不満）

1＝まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

なお、Q5. 自由記載欄には、忌憚のない意見を自由に記述願います。特に、評価項目について、「2＝役立たなかった（やや不満）」、「1＝まったく役立たなかった（改善を求める）」に評価した場合は、それらの問題点や改善点を自由記載欄に記述してください。

学部（○で囲んでください）： 教育学, 地域科学, 医学, 工学, 応用生物科学

学科： _____

担当教員名もしくはセミナー名： _____

- Q 1. 初年次セミナーの内容のうち、あなたが受講したセミナーで実施された内容については、その評価を5段階で記入してください。表にないトピックが扱われた場合には、「その他」の欄に評価を記入し、その授業内容を〔 〕欄に記入してください。また、受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、初年次セミナーには欠かせないと思う内容については○を記入してください。

セミナー内容	5段階 評価	ぜひ取り入れて 欲しい内容には ○を記入してく ださい。
キャンパス・ガイドを用いたガイダンス		
図書館の使い方（図書館ツアー）		
健康管理に関わる講演会		
防災・危機管理に関する講演会		
大学院生、留学生、外部講師等による講演会		
レポートの書き方		
日本語リテラシー（文章の書き方等）		
発表・プレゼンテーションの仕方		
課題解決型授業、グループワーク		
専門教育への導入的な授業		
本の読み方、文献講読		
その他①〔 〕		
その他②〔 〕		

- Q 2. 「初年次セミナー」を受講したことが、高校までの勉強のスタイルから大学での学修へと転換することに役立ちましたか。

評 価

--

- Q 3. 大学生の学び方を身につける「初年次セミナー」の内容として、上の表にあるもの以外で、ぜひ取り入れて欲しかった内容があれば教えてください。

〔 具体的にお書きください。 〕

Q 4. このセミナーは総合的に満足のいくものでしたか。

評 価

Q 5. 初年次セミナーに関するご意見、ご要望等があれば、自由に記載してください。

4. 調査結果

以下に各学部からの回答を集計した結果、全学部をまとめた集計結果、ならびに各質問項目に対する意見等を集約して示した。

1) 教育学部における調査結果

教育学部では、158名の学生からアンケートの回答を得た（回答率：63.2%）。以下に回答結果を示す。

教育学部は文系・理系および実技系により構成されており、教員養成を主とする学部である。初年次セミナーについては、基本的に各講座単位で実施されており、講座ごとにオムニバス形式、専任担当の教員による授業、両者の複合などの形態をとっている。以下、初年次セミナー講義での内容（項目）別の実施状況および概括的感想とそれらの分析、ならびに自由記述の分析について述べる。

※実施率については、実施されたアンケート中の「無回答」を未実施と読み替えている。

Q1. 授業内容について（総説および個別科目）：

まず、「③健康管理に関わる講演会」、「②図書館の使い方（図書館ツアー）」は教育学部での未実施は1割以下、「①キャンパス・ガイドを用いたガイダンス」、「⑩専門教育への導入的な授業」については未実施は2割以下で、おおむねすべての講座がこれを行っているといえよう。

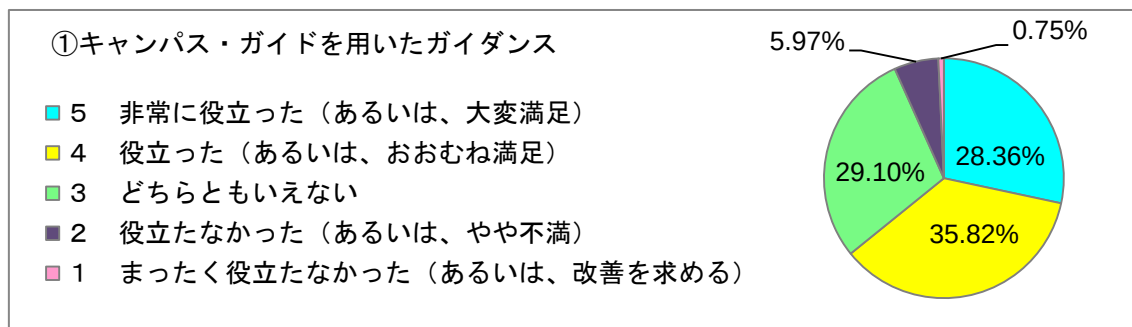
「④防災・危機管理に関する講演会」、「⑨課題解決型授業、グループワーク」、「⑤大学院生、留学生、外部講師による講演会」については、未実施率は3割台後半とやや高くなっている。また「⑥レポートの書き方」、「⑧発表・プレゼンテーションの仕方」、「⑪本の読み方、文献購読」、「⑦日本語リテラシー（文章の書き方等）」については、未実施率は4割台であり、とくに後三者は4割台後半となっている。

教育学部の顕著な特徴は、後述するように初年次セミナーに対する概括的な質問「Q4. このセミナーは総合的に満足 of いくものでしたか」や、「Q2「初年次セミナー」を受講したことが、高校までの勉強のスタイルから大学での学修へと転換することに役立ちましたか」での肯定的評価が、突出して高い一方で、具体的な項目になるととくに突出した評価はみられないという点である。肯定率は84.73%（⑩専門教育への導入的な授業）から57.4%（④防災・危機管理に関する講演会）の間に分布しており、「⑦日本語リテラシー（文章の書き方等）」、「⑥レポートの書き方」など応用生物科学部で高い実施率と評価を獲得した項目についても、教育学部では全学での平均値あたりの数字にとどまっている。「⑪本の読み方、文献購読」、「⑨課題解決型授業、グループワーク」、「⑧発表・プレゼンテーションの仕方」といった高大転換的な項目についても、同様の傾向が見られる。

これらの特徴については、「⑩専門教育への導入的な授業」の実施率とその肯定率の高さからもうかがわれるように、教育学部では、各講座の特性を生かした取り組みの比重が高いことが関わっていると考えられる。今後はこのような特性を生かしつつ、先述した高大転換的な内容の講義をどの程度取り入れるかについての議論も必要となってくると考えられる。

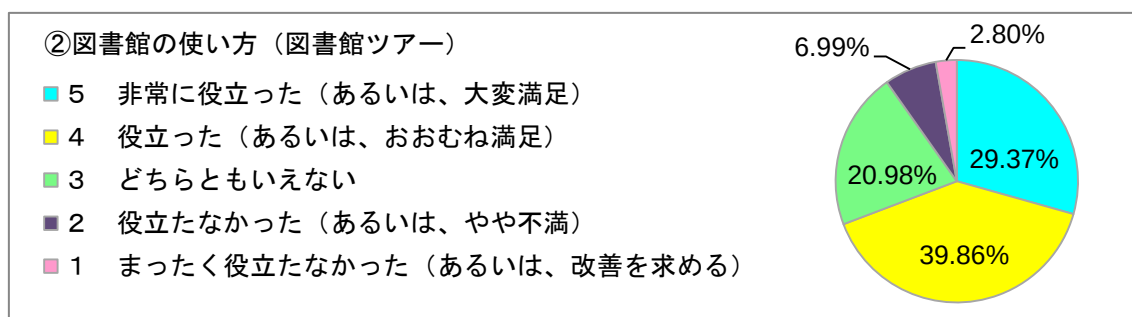
①キャンパス・ガイドを用いたガイダンス

教育学部での実施率は「⑩専門教育への導入的な授業」とともに8割を超えており、大多数の講座がこれを実施している。実施した講座での肯定率は64.2%で、学部内では下位である。



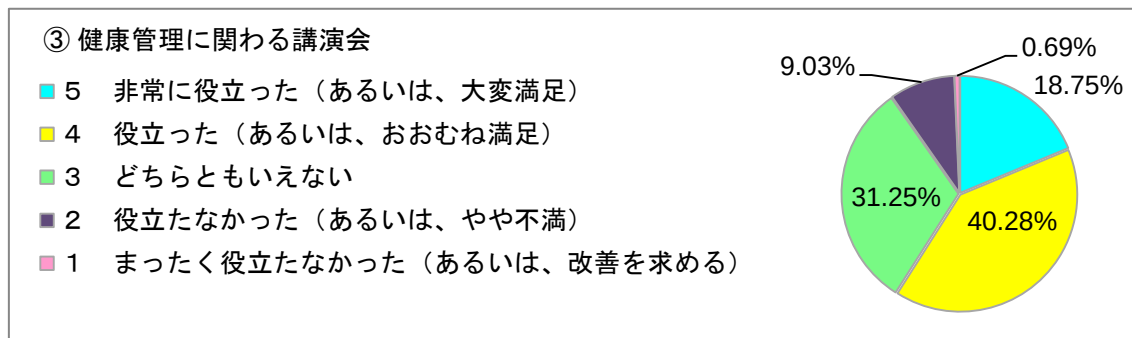
②図書館の使い方（図書館ツアー）

教育学部での実施率は「③健康管理に関わる講演会」とならんで9割を超えており、ほとんどの講座がこれを実施している。実施した講座での肯定率は69.2%で、学部内ではほぼ中位である。



③健康管理に関わる講演会

教育学部での実施率は「②図書館の使い方（図書館ツアー）」とならんで9割を超えており、ほとんどの講座がこれを実施している。実施した講座での肯定率は59.0%で、全項目中10位と低い。

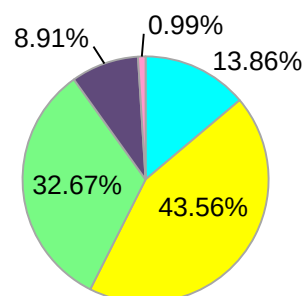


④防災・危機管理に関する講演会

未実施率は3割台後半とやや高い。実施した講座での肯定率は 57.42%で全項目中最下位だが、それでも6割近くが肯定しているという結果は興味深い。

④防災・危機管理に関する講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

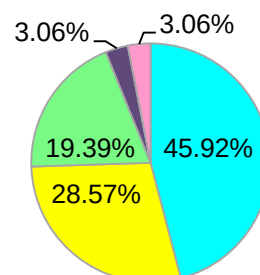


⑤大学院生、留学生、外部講師による講演会

未実施率は3割台後半とやや高くなっているが、肯定率は 74.5%ときわめて高く（第3位）、実施した講座にあって満足度は高かったと考えられる。一方で否定的なコメントも一件あり、個別の内容についての情報は今後の初年度教育の改革にとって貴重なデータとなると思われる。

⑤大学院生、留学生、外部講師による講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

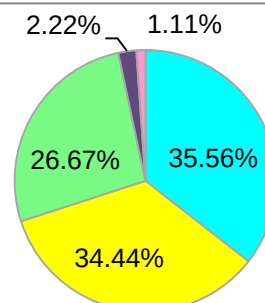


⑥レポートの書き方

未実施率は4割台で、教育学部の中では高い数値である。しかし実施した講座での肯定率は 70%（4位）と高い。学生間の一定のニーズがあることがうかがえる。

⑥レポートの書き方

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



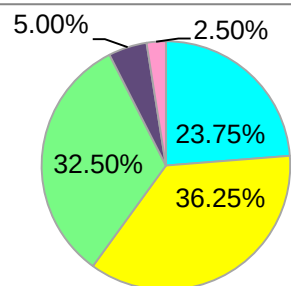
⑦日本語リテラシー

未実施率は4割台後半で、教育学部ではもっとも高い。実施した講座での肯定率は 60%（8

位) だが、内容的に⑥⑧との重複があった可能性もある。

⑦日本語リテラシー（文章の書き方等）

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

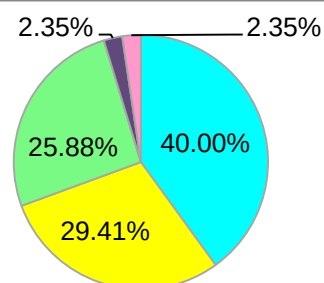


⑧発表・プレゼンテーションの仕方

未実施率は4割台後半で、教育学部ではもっとも高い。しかし実施した講座での肯定率は69.4%（5位）で、学生の一定のニーズがあると考えられる。

⑧発表・プレゼンテーションの仕方

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

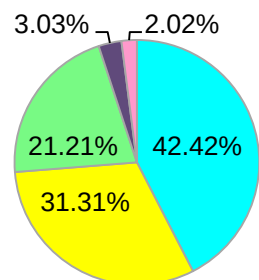


⑨問題解決型授業、グループワーク

未実施率は3割台後半とやや高いが、実施した講座での肯定率は74.73%（2位）ときわめて高い。学生のニーズおよび実施講座での満足度が高く、注目すべき授業である。各講座ごとにどのような授業が行えるか考えるためにも、評価の高い授業例の分析や公開が望まれる。

⑨課題解決型授業、グループワーク

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

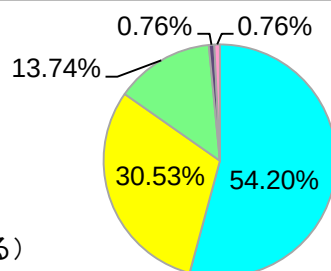


⑩専門教育への導入的な授業

未実施は2割以下で、大多数の講座がこれを実施している。実施した講座での肯定率は84.73%（1位）で、教育学部における最大の特徴となっている。

⑩専門教育への導入的な授業

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

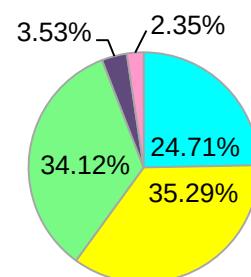


⑪本の読み方、文献購読

未実施率は4割台後半で、教育学部ではもっとも高い。実施した講座での肯定率は60%（8位）で「3 どちらともいえない」の率が高く、学生、教員ともに模索の段階といえるかもしれない。

⑪本の読み方、文献購読

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



①から⑪以外に受講したセミナー内容については、以下の項目が挙げられた。これらについての評価はおおむね高かった。

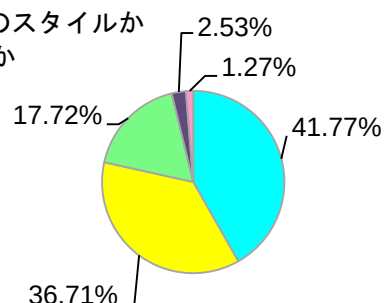
- ・ 山登り（生物）
- ・ 岩石薄片の作成（地学）
- ・ 参観学集（特別支援）
- ・ ディベート（心理）
- ・ アイスブレイク（心理）
- ・ 自己紹介（心理）

Q2. 転換教育について：

「Q2「初年次セミナー」を受講したことが、高校までの勉強のスタイルから大学での学修へと転換することに役立ちましたか」での、役に立ったと認識しているのが8割弱、とくに「非常に役に立った」の比率が41.7%という数字も全学と比較して非常に高かった。これは「⑩専門教育への導入的な授業」への高い評価と連動しており、教育学部における講座単位での初年次教育の実施という講義形態の有効性を示している。

Q2 「初年次セミナー」を受講したことが、高校までの勉強のスタイルから大学での学修へと転換することに役立ちましたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



Q3. 今後取り入れてほしい講義内容：

教育学部では、卒業研究がどのようなものか具体的に知りたい（社会）という希望があがっている。

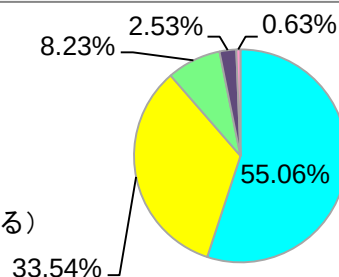
- ・ 卒論を見してみる初年次セミナー

Q4. 総合的な満足度：

教育学部の顕著な特徴としては、まず概括的な感想「Q4 このセミナーは総合的に満足 of いくものでしたか」での「初年次セミナー」への肯定率9割弱（うち5が55%）という評価が全学で突出して高いことが挙げられる。個別の授業内容との関連性については、「Q1 授業内容について」での分析を参照されたい。

Q4 このセミナーは総合的に満足 of いくものでしたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



Q5. 初年次セミナーに関する意見、要望等

教育学部では、相対的に叙述自体の数は多くはないものの、特定のセミナーのみに集中することもなく分散して意見が出されている。肯定的な評価（理科（物理、生物）、家政、英語、特別支援）では、ほとんどが新しい知識の習得、アクティブ・ラーニング的な能動性を評価するものであった。また批判的評価とされるもの（グループINGの新規提案、学生の消極的な反応の指摘）にあっても、積極的に興味をもてる講義内容を提案しようとする姿勢が見られる。

- ・ 受かりたい。
- ・ もっと頑張ります。
- ・ 新しいことを知れた。
- ・ アーミッシュのことを知ることが出来て楽しい授業だった。【3名】
- ・ 高校とは違い、自分達で作り上げて行く授業はとても楽しく、これから役に立ってい

- く物であると思いました。
- ・ 知識がついた。
 - ・ ありがとうございました。
 - ・ 史、地理、現社の学生をシャッフルしてグループ単位で話しを聞いたほうが仲良くなると思う。
 - ・ キツイです。
 - ・ 講演会は学生の意欲がなかったので、あまり意味がないと思われる。

2) 地域科学部における調査結果

地域科学部では、26名の学生からアンケートの回答を得た（回答率：26.0%）。以下に回答結果を示す。

地域科学部の初年次セミナーアンケートに対する回答数が低いので一般化することはできないが、遅れて私（地域科学部 近藤真）のセミナーでも9月の徳島への調査旅行の後にアンケートを10月1日に実施した結果（11/13の回答を得た）を含めて、以下の論評を書くこととした。

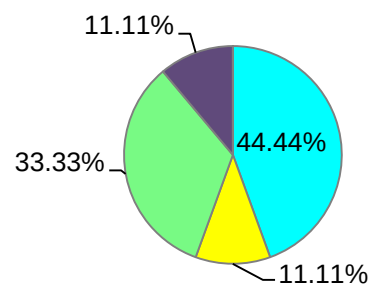
Q1. 授業内容について：

①キャンパスガイドを用いたガイダンス

キャンパスガイドを用いたガイダンスが役に立ったという回答は、全体（「非常に役立った」＋「役立った」）で55%あり（全学では57%）、どちらともいえないが、33%であったが（全学では36%）、キャンパスガイドを用いたガイダンスは、セミナーでは行っておらず、入学時の学部教務委員会からの新入生学部説明会で行われているので、それは、もちろん年ごとに丁寧であったり、簡単であったりするが、このアンケート結果はセミナーではなく、むしろ今年度の教務委員会の説明に対する評価を意味しているのではないと思われる。

①キャンパスガイドを用いたガイダンス

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

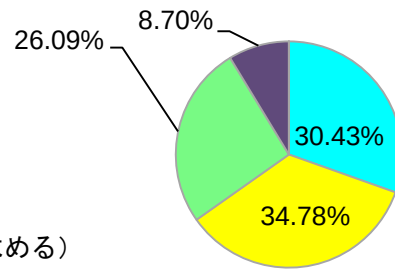


②図書館ツアー

図書館ツアーは、役だったとするものが65%で（全学では61.5%）、どちらともというのが26%であった（全学では25.7%）。図書館職員によるものであれ、担当教員独自によるものであれ、おおむね好評であるが、教員による図書館案内はとりわけ評価が高いので、教員は積極的に新入生を図書館へ連れて行ってほしい。まずは全員で本を借りるところから始めてみるとよいと思う。

②図書館の使い方（図書館ツアー）

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

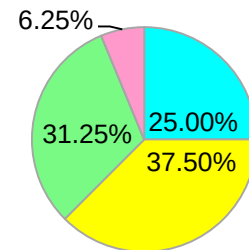


③健康管理に関する講演会

健康管理に関する講演会は、初年次セミナーの第一回の全体集会で 30 分間、行われたが、役だったとするものは 62.5%であった（全学では 51.6%）。図書館に行く前に保健管理センターに立ち寄って挨拶していただいても良いので、実際に利用してみると評価はさらに高まるに違いない。保健管理センターの医者の相談を受けやすくしておくことは、学生に精神的な負荷が過重にかかった時に医学的対処によって危機を乗り越えることが可能になる場合が多いので、極めて重要である。今年度はあわただしかったので、次年度は新生入生への学部ガイダンスで行うことになった。

③健康管理に関わる講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

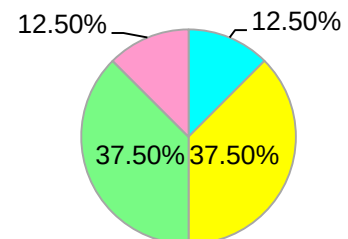


④防災講演会

防災講演会は、役に立ったとするものが 50%に及ぶが（全学では 55%）、教員自体に対する防災研修が十分に行われていないので、最低限、学生に何を教えるべきかの教員マニュアルを作成しておく必要がある。

④ 防災・危機管理に関する講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



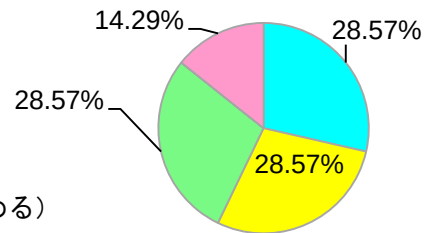
⑤院生、留学生、外部講師による講演会

外部講師による講演会が役に立ったとするものが 57%に及ぶが（全学では 73.9%）、学生を外へ連れ出したり学内へ招待したりして外部講師を活用することは外界とのつながりや学生の研究関心を広げ発展の可能性を高める機会ともなるので重要である。積極的に活用す

べきであろう。

⑤大学院生、留学生、外部講師による講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

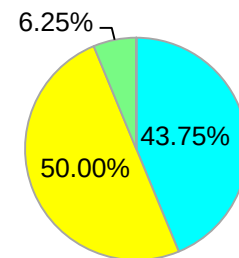


⑥レポートの書き方

レポートは、役に立ったとするものが 93. 7%に及ぶが(全学では 63%)、毎回発表させたとしても、各人が発表担当になる機会は少ないので、十分とは言えない。ただし、地域科学部は、初年次セミナーの後で少人数の基礎セミナーが、1 年後期から 2 年前期まで 1 年間にわたって必修となり、さらに卒論ゼミが 2 年後期から 4 年後期まで 2 年半にわたり必修となっているので、全く心配はいらないといえよう。

⑥ レポートの書き方

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

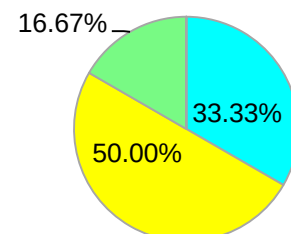


⑦日本語リテラシー

日本語リテラシーも役に立ったとするものが 88. 3%に及ぶが(全学では 52. 3%)、前項のレポートの書き方と同様、日本語リテラシーは本を正確に要約することで格段に高まるので、4 年まで続けることが望まれるし、地域科学部では 4 年間の少人数教育で対応できていると言ってよい。

⑦日本語リテラシー（文章の書き方等）

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



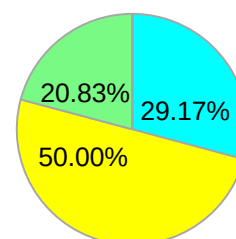
⑧発表・プレゼンテーションの仕方

発表・プレゼンは役に立ったとするものが 79. 1%に及ぶが(全学では 60. 3%)、プレゼンは本の要約の発表だけでは必ずしも高い評価を得られるわけではないので、問題意識を研ぎ澄まして短い報告中に適格な問題の剔抉と視覚効果を狙ったパワーポイントなどを駆使し

たプレゼン技術が求められるが、少人数ゼミで4年かけて地道に研究していくしかないであろう。

⑧発表・プレゼンテーションの仕方

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

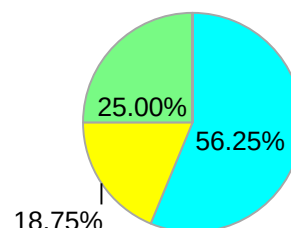


⑨課題解決型授業、グループワーク

課題解決型授業・グループワークについては、役に立ったとするものが75%に及ぶが(全学では60.1%)、これは教員の専門的能力が高くないと学生の結論は低いレベルで終わってしまうので学生がいくら楽しくても教育効果は必ずしも高くなるわけではない。学生はただ体を動かしたり、議論したりすること自体が楽しいのであって、これで高尚な結論に至るわけではないのである。それは指導する教員の問題意識の深さにかかっている。しかし、課題解決型の授業は、勉強の動機づけに役立つので、後々の効果を期待できるがゆえに、積極的に位置づける必要があるのである。

⑨課題解決型授業、グループワーク

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

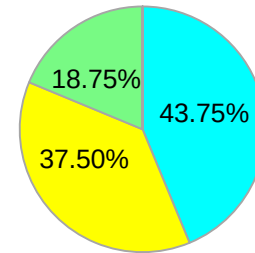


⑩専門教育への導入的な授業

専門教育への導入的な授業として、役に立ったとするものが81.2%に及ぶが(全学では65.2%)、地域科学部では地域研究を行うので、地域に積極的にはいる授業は専門への動機づけに有効である。初年次セミナーは、30年前にできた最初は「教養セミナー」と呼ばれ、新入生を大学生活への定着を図るという目的は同じであっても、全学の学生の混成部隊であって、本来的には専門のためのゼミではなかったが、今日では同じ学部の学生だけで編成され、事実上専門のための基礎セミナーになっているが、本来、文学や芸術や哲学を紐解いたり、様々な視点から人生論を語ったり、専門とは別個に、教養を重視すべきものとされていた。そういう訳で、地域科学部では今もそのような精神がいくらか続いているものと思う。

⑩専門教育への導入的な授業

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

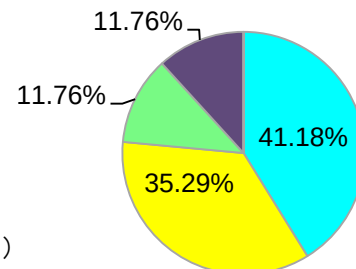


⑪本の読み方、文献講読

本の読み方、文献講読については、役に立ったとするものが 76.3%に及ぶが(全学では 44.1%)、正確な要約をできるようにするために文章力もリテラシーも高めるので、極めて重要である。

⑪本の読み方、文献講読

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



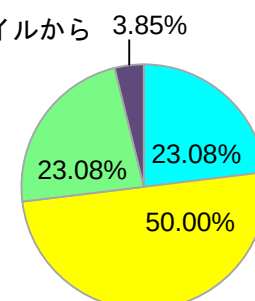
①から⑪以外に受講したセミナー内容については、回答がなかった。

Q 2. 転換教育について：

高大転換に、役に立ったとするものが 73%に及ぶが(全学では 56.1%)、初年次セミナーは、座学中心の高校教育から研究発表中心の大学教育へと転換する転換教育としても重要であり、学生たちの関心のある文献を読むことで事実上専門への橋渡しともなっている。

Q2「初年次セミナー」を受講したことが、高校までの勉強のスタイルから大学での学修へと転換することに役立ちましたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



Q 3. 今後取り入れてほしい講義内容：

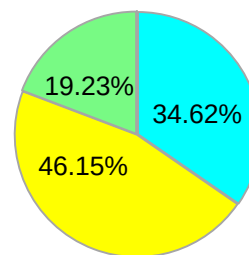
回答なし

Q 4. 総合的な満足度：

満足度は、役に立ったとするものが 80.7%に及ぶが(全学では 65.3%)、初年次セミナーは、大学ゼミの始まりであり、自らの考えを教員の前で発表する場である。また、他の学生仲間と真剣に討議する場所であり、したがって、当然ながら、自己実現の充実感の常に最も高い授業科目である。ここで、一生の友人が発見できれば、大学としては望外の幸せというものである。

Q4 このセミナーは総合的に満足のいくものでしたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



Q 5. 初年次セミナーに関する意見、要望等

地域科学部では、以下の意見、要望があげられた。

- ・楽しかったです。毎週楽しみでした。
- ・楽しかった。先生には幅広い分野のことを知っているなと思った。
- ・地域の初年次セミナーは、それぞれ個性があって面白いと思った。
- ・皆の好きなものが知れて良かった。
- ・自分の好きなことを紹介するのは楽しかった。
- ・皆の発表に個性があって楽しめた。
- ・発表するのが難しくて緊張したが、これからの大学生活で活かしたい。
- ・毎時間色々な人の好きなものの発表を聞くことが出来て楽しかった。
- ・文献の探し方、論文を書く上で大切なことを学ぶことが出来ました。ありがとうございました。
- ・暇な時間が多かった。

3) 工学部における調査結果

工学部では、445名の学生からアンケートの回答を得た（回答率：87.3%）。以下に回答結果を示す。

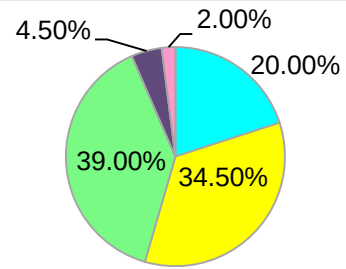
Q 1. 授業内容について：

キャンパス・ガイドを用いたガイダンス

満足度（青＋黄）は5割超で他学部と同程度であった。

①キャンパス・ガイドを用いたガイダンス

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

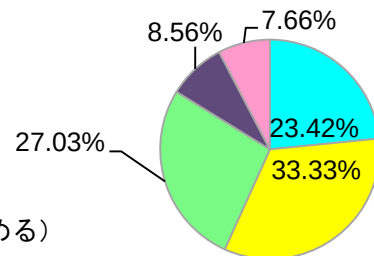


②図書館ツアー

他学部が7割近い満足度を示し、不満足度（紫＋ピンク）は1割以下であるのに比べ、工学部の満足度は6割以下で不満足度が2割近かった。また、肯定的意見はなく、否定的意見総数42件のうち8件が図書館ツアーに関するものであった。特に「知っていることなので必要ない」という意見が多かった。

②図書館の使い方（図書館ツアー）

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

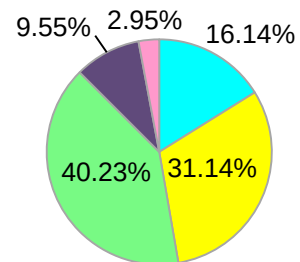


③健康管理に関わる講演会

他学部の満足度が6割程度であるのに対し、工学部で5割以下であった。

③健康管理に関わる講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

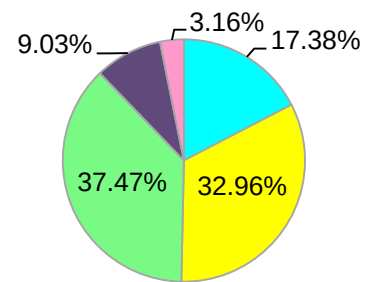


④防災・危機管理に関する講演会

満足度は5割程度で地域科学部、教育学部と似た傾向であった。

④防災・危機管理に関する講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

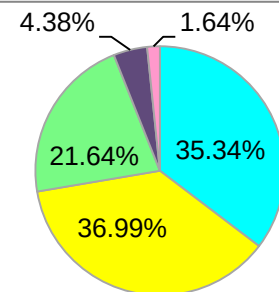


⑤大学院生、留学生、外部講師による講演会

満足度は7割超で高かった。（社会で活躍する卒業生の講演は、在校生にとり、将来像を描き学問へのモチベーションを高めることに繋がると感じる。）

⑤大学院生、留学生、外部講師による講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

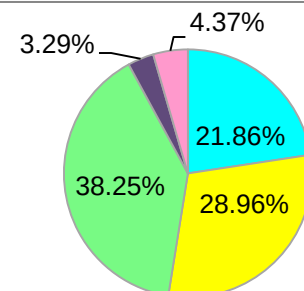


⑥レポートの書き方

他学部の満足度が7割以上と非常に高かったのに比べ、工学部の満足度は5割程度にとどまった。特に否定的な意見はなかった。

⑥レポートの書き方

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

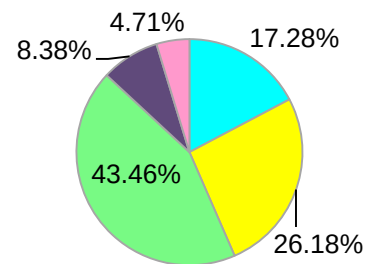


⑦日本語リテラシー

他学部が6割以上の満足度を示したのに対して、工学部では5割以下であった。特に否定的な意見はなかった。（工学部の学生にこそ、文章の書き方が必要なので、意識を高める必要があると感じる。）

⑦日本語リテラシー（文章の書き方等）

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

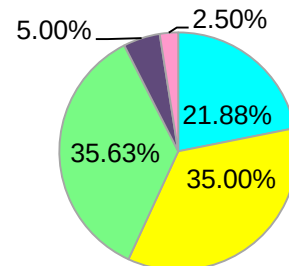


⑧発表・プレゼンテーションの仕方

満足度は6割弱であった。（工学部では教員（助言教員）が発表前にパワーポイントの内容をみている。学科により異なると思われるが、化学・生命工学科では、自己紹介がほとんどで、内容も似ているものが多い。新入生同士が知り合う機会としてはよいと思うが、発表・プレゼンテーションの仕方という意味では物足りないものとなっている。）

⑧発表・プレゼンテーションの仕方

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

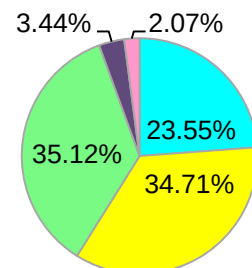


⑨問題解決型授業、グループワーク

満足度は6割弱であった。

⑨課題解決型授業、グループワーク

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

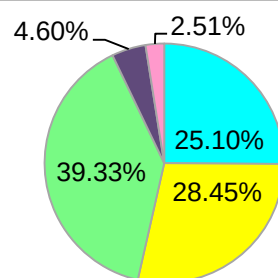


⑩専門教育への導入的な授業

満足度は5割超であった。研究室見学については多くの個別意見があった。概ね、もっと少人数で時間にゆとりを持って研究室を見学したいという意見であった。

⑩専門教育への導入的な授業

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

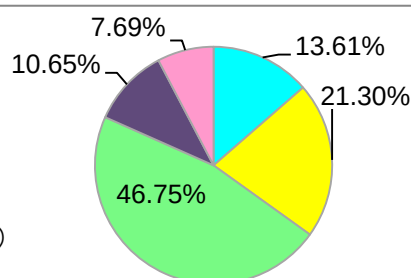


⑪本の読み方、文献購読

応用生物科学部と同様、満足度は3割程度で低かった。

⑪本の読み方、文献購読

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



①から⑪以外に受講したセミナー内容については、以下の項目が挙げられた。

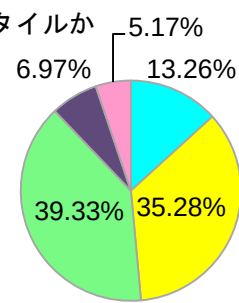
- ・ 研究室訪問（機械）
- ・ パワーポイント演習（機械）
- ・ 発表（機械）
- ・ メール送信（機械）
- ・ 研究室訪問（化学）
- ・ 企業説明（化学）
- ・ 自己紹介（化学）
- ・ コンピュータリテラシー（電気 A）
- ・ 研究室ツアー（電気 A）
- ・ 研究室体験（電気 A）
- ・ プログラミング（電気 B）

Q 2. 転換教育について：

この科目が高次転換科目として、「非常に役立った」および「役立った」と回答した者は合わせて約 49%であり、「どちらとも言えない」と回答した者が 40%程度であった。役立ったと回答した割合は、全体の集計（56%）と比較して同程度であった。また、「役立たなかった」および「全く役立たなかった」と回答した者は合わせて約 12%であり、全体の値（9%）と比較するとやや高かった。

Q 2 「初年次セミナー」を受講したことが、高校までの勉強のスタイルから大学での学修へと転換することに役立ちましたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



Q 3. 今後取り入れてほしい講義内容：

工学部では、以下の項目があげられた。

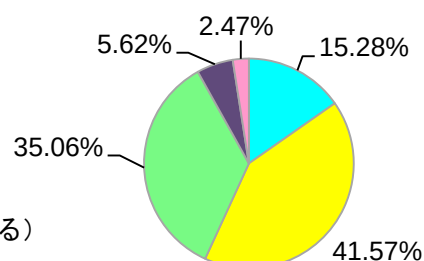
- ・ 研究室見学(社会)
- ・ 履修について(社会)
- ・ 物理現象を実際に見たい(機械)
- ・ 学部・大学院でどんな授業コマになっているのか詳しく教えてほしい(機械)
- ・ パソコン機能について(機械)
- ・ 留学生と交流できる場(機械)
- ・ レポートの書き方(3人)(化学)
- ・ GU フィットネスセンターの使い方(化学)
- ・ 課外学習
- ・ ディベート形式の授業(化学)
- ・ グループワークで学科の人ともっと交流を深められるような授業があっても良いかと思う(化学)
- ・ 論文の書き方(化学)
- ・ 学内施設ツアー(化学)
- ・ 学科の先輩からのアドバイス(電気 A)
- ・ パソコンに関する講義(電気 B)
- ・ ホームページなどの作り方に関する講義(電気 B)
- ・ プログラム入門の講義(電気 B)
- ・ 大学の歴史(電気 B)
- ・ 単位に関して(電気 B)
- ・ 研究室紹介(2人)(電気 C)

Q 4. 総合的な満足度：

総合的な満足度は6割弱で他学部に比べて低かった。「楽しかった」「大学生として必要な知識を学ぶことができた」という意見があった。一方で、「不必要」という意見が複数あった。「講演が多すぎる」という意見もあった。

Q 4 このセミナーは総合的に満足のいくものでしたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



Q 5 初年次セミナーに関する意見、要望等

工学部では、以下の意見、要望があげられた。

- ・グループワークが良かった。《社会》
- ・もっと外部講師の話を聞きたかった。《機械》
- ・プレゼンテーションは楽しかった。《化学》
- ・研究室のことを知れてよかった。【2名】《化学》
- ・楽しくて興味深かったです。《化学》
- ・このままでいいと思う。《化学》
- ・課題解決は大学生に欠かせない能力です。《化学》
- ・卒業生の方の講演はためになって良かった。《化学》
- ・大学生として必要である知識を学ぶことが出来て良かった。《電気A》
- ・良かったです。《電気B》
- ・研究室をもっとたくさん見たかった。【4名】《電気B》
- ・課題がないことは助かった。《電気B》
- ・失敗したため反省点を次にいかしたい。《電気C》
- ・興味が沸くようなものがいい。《社会》
- ・レポートの書き方は4月の最初の時に教えて欲しかった。《社会》
- ・研究室見学的时间が短すぎる。P C演習、パワーポイント演習のレベルが低すぎる。《機械》
- ・この授業は全くいらないです。あっても火曜の5限という時間に行うのはやめて欲しい。《機械》
- ・必要性を感じられない。【2名】《機械》
- ・5限から変えて欲しい。【2名】《機械》
- ・毎週はやらなくてもいいと思う。《機械》
- ・研究室見学のスライドが速すぎた。《機械》
- ・研究室説明は5分で全員が急いで説明するより、一部の人が時間を掛けて説明したほうがいい。パワポの制作期間が短い。《機械》
- ・出来ればなくしたほうがいい。《機械》
- ・図書館ツアーはなくても使い方は分かる。【2名】《機械》
- ・パソコンはトラブルを考えて2台用意したらどうでしょうか。《機械》
- ・発表時期をテストと被らせないで欲しい。《機械》

- ・ 研究室見学はもっと余裕のあるものにして欲しい。《機械》
- ・ もっと研究室紹介をきっちりやって欲しかったし、発表会とその準備に使う授業時間を紹介に使って欲しかった。《機械》
- ・ 図書館の説明はもう既に知っていることを聞かされて不愉快でなくすべき。《機械》
- ・ 班で動く活動がもっとあれば良かった。《化学》
- ・ 初年次セミナーを受けて私の人間性からして、本当は大学生になるべきではなかったのではないかと真剣に悩むようになった。《化学》
- ・ 図書館はツアー前から使用している学生も多く、既知の話が多かった。《化学》
- ・ プレゼンテーション時等に意味もなく歩き回ったり場違いな言動をとる人達が多く大変不愉快だった。《化学》
- ・ 図書館ツアーは必要ない。《化学》
- ・ 健康管理に関する講義はいらないと思った。《化学》
- ・ もっと学科内で人とふれ合う機会が欲しかった。《化学》
- ・ グループワークはやりたいです。プレゼンは、教員が脅かしすぎだと思います。《化学》
- ・ 講演が多すぎる。《化学》
- ・ 図書館ツアーの案内人の態度が悪すぎる人がいた。《化学》
- ・ AIMSにUPされている初年次セミナーに関する資料の日付が去年のままで困りました。《化学》
- ・ 自己紹介のプレゼンの時期をもっと早くした方がいいと思う。《化学》
- ・ 人が多すぎる。《化学》
- ・ 図書館ツアーは時間の無駄なので資料を配付して終了して欲しい。《電気A》
- ・ 初年次セミナーは必要ないと思う。《電気A》
- ・ 図書館ツアーのタイミングが遅い。《電気A》
- ・ 専門教育への導入的な授業がレベルが高くて大変でした。《電気A》
- ・ 自分の中で何か変革が起こせたかということ、そうではなくただ面倒くさい授業になってしまった。その理由として例えばただ単純な作業（話を聞いて感想を書くような）をするだけで、わざわざ初年次セミナーとしてする必要があったのか疑問を抱いてしまった。受ける側として自分にも非があると思いますが、もう少し意味を見いだせる講義であって欲しい。《電気A》
- ・ 防災に関する講演会が専門的な内容の部分が防災につなげにくいところ。《電気B》
- ・ レポートの書き方を取り入れ図書館ツアーを早めの時期に行って欲しい。《電気B》
- ・ 図書館ツアーをもっと早くして欲しい。《電気B》
- ・ 講義の時間が遅いのが嫌だ。1～4限で実施して欲しい。《電気B》
- ・ 発表はパワーポイントの方が良かったと思う。《電気C》
- ・ 講義の終了時間を守って欲しい。多少の延長はいいが、20分30分の延長は授業後の予定に影響する。《電気C》
- ・ 先生の性格が悪かった。
- ・ 先生の態度が傲慢であった。

4) 応用生物科学部における調査結果

応用生物科学部では、121名の学生からアンケートの回答を得た（回答率：63.7%）。以下に回答結果を示す。

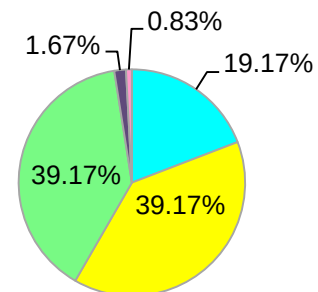
Q1. 授業内容について：

応用生物科学部では、「図書館の使い方」、「防災・危機管理に関する講演会」「大学院生・留学生・学部講師による講演会」および「レポートの書き方」について、「非常に役立った」および「役立った」と回答した者があわせて約70%、あるいはそれ以上であり、これらの値は全体の集計結果と比較しても高かった。また、「キャンパス・ガイドを用いたガイダンス」、「健康管理に関わる講演会」および「日本語リテラシー」について、「非常に役立った」および「役立った」と回答した者があわせて約60%であり、全体の集計結果の場合と同程度であった。なお、応用生物科学部では、「発表・プレゼンテーションの仕方」、「課題解決型授業・グループワーク」、「専門教育への導入授業」および「本の読み方・文献検索」については、授業内容に取り上げていないため「無回答」の学生が多く、これらの項目については解析から除外した。また、①～⑪以外で受講したセミナー内容については回答がなかった。

応用生物科学部では、初年次セミナー改革として内容の大幅な見直しを行い、27年度から新しい授業内容を取り入れている。その中で「大学院生・留学生・学部講師による講演会」および「レポートの書き方」については新しく取り入れた項目であり、これらについては高い満足度が得られている。

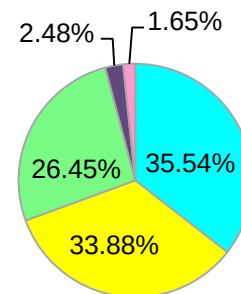
①キャンパス・ガイドを用いたガイダンス

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



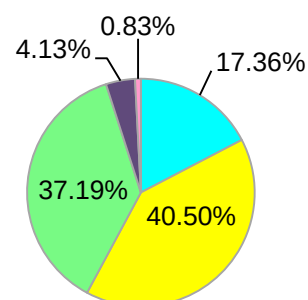
②図書館の使い方（図書館ツアー）

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



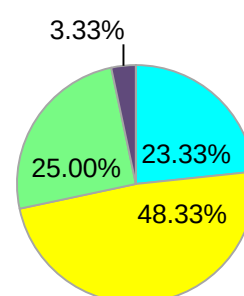
③健康管理に関わる講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



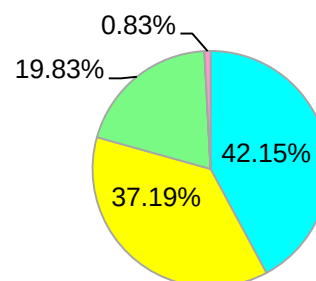
④防災・危機管理に関する講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



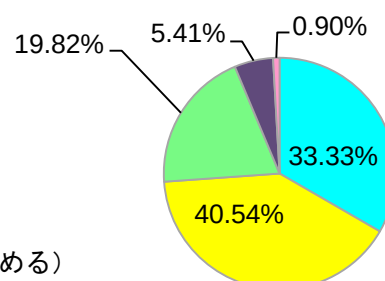
⑤大学院生、留学生、外部講師による講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



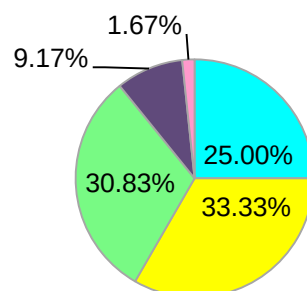
⑥レポートの書き方

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



⑦日本語リテラシー（文章の書き方等）

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

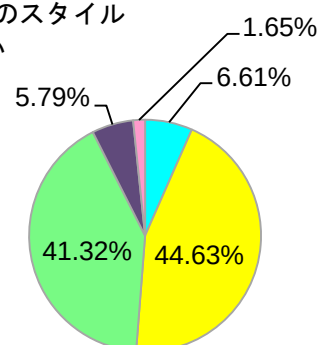


Q 2. 転換教育について：

この科目が高大転換科目として、「非常に役立った」および「役立った」と回答した者は合わせて約 51%であり、「どちらとも言えない」と回答した者が 40%程度であった。役立ったと回答した割合は、全体の集計（56%）と比較して同程度であった。また、「役立たなかった」および「全く役立たなかった」と回答した者は合わせて約 7%であり、これも全体の値（9%）と同程度であった。

Q 2 「初年次セミナー」を受講したことが、高校までの勉強のスタイルから大学での学修へと転換することに役立ちましたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



Q 3. 今後取り入れてほしい講義内容：

応用生物科学部では、以下の項目があげられた。

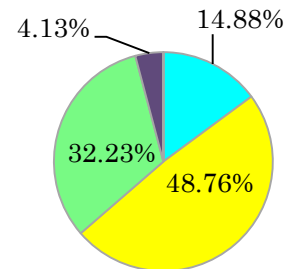
- ・ 時間の管理について
- ・ 研究室見学
- ・ 学部・学科に関連のある内容
- ・ 実験等の体験学習
- ・ レポートの書き方
- ・ 勉強や大学での過ごし方に関する先輩の話
- ・ 鵜飼
- ・ レクリエーション

Q 4. 総合的な満足度：

この科目を受講した総合的な満足度は、「大変満足」および「おおむね満足」を合わせて約 64%であり、この値は、全体の値（66%）と同程度であった。一方、「やや不満」と回答した者は約 4%であり、この値は全体の値（4.5%）と同じであった。一方、「改善を求める」と回答した者はいなかった。

Q 4 このセミナーは総合的に満足のいくものでしたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



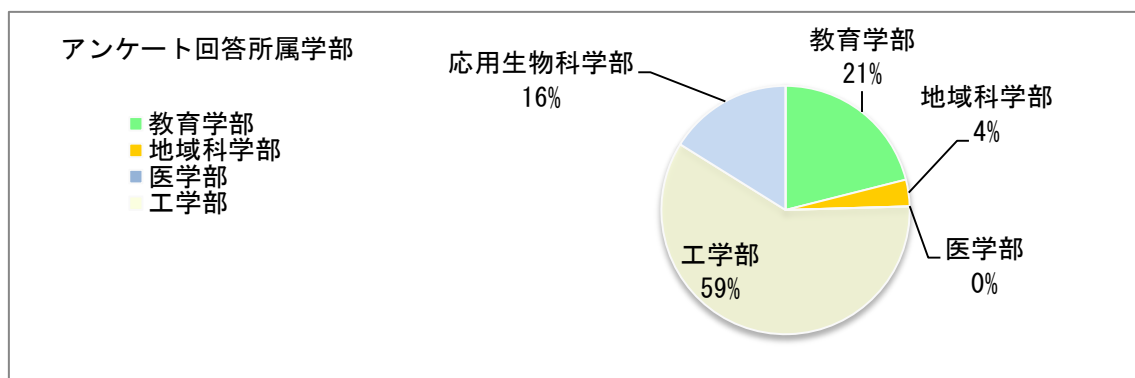
Q 5 初年次セミナーに関する意見、要望等

応用生物科学部では、以下の意見、要望があげられた。

- ・他学科課程の研究を知りたい。
- ・課程の希望コースに分かれてそれぞれの研究室の発表を聞きたい。
- ・プレゼンテーションの機会が欲しい。
- ・どんな研究室があるのか何をしているのか全て教えて欲しかった。
- ・もっと学部色の強い授業を受けたかった。
- ・日本語リテラシーはやらなくていいと思う。
- ・課題を減らして欲しい。
- ・レポートの書き方をもう少し詳しくやって欲しかった。
- ・日本語学習がよく分からなかった。
- ・5限にやるのはやめて欲しい。

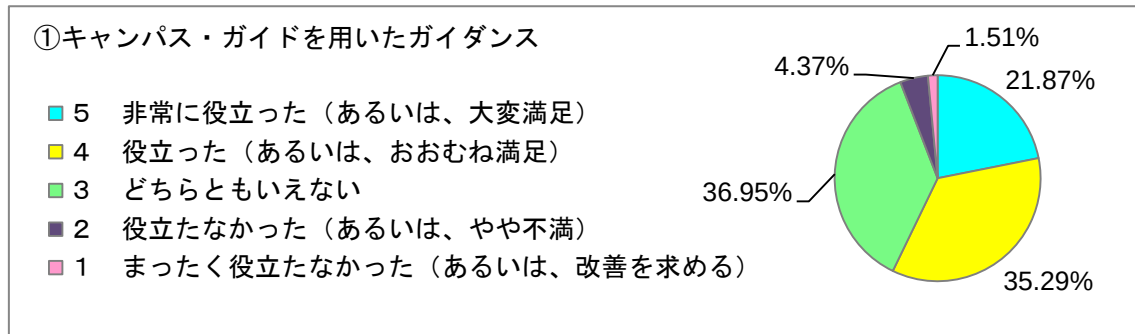
5) 全体の集計結果

Q 1、Q 2 および Q 4 の結果を学部全体で集計し、以下にその結果を示す。全体では、750 名の学生からアンケートの回答を得た（回答率：63.6%）。以下に回答集計結果を示す。



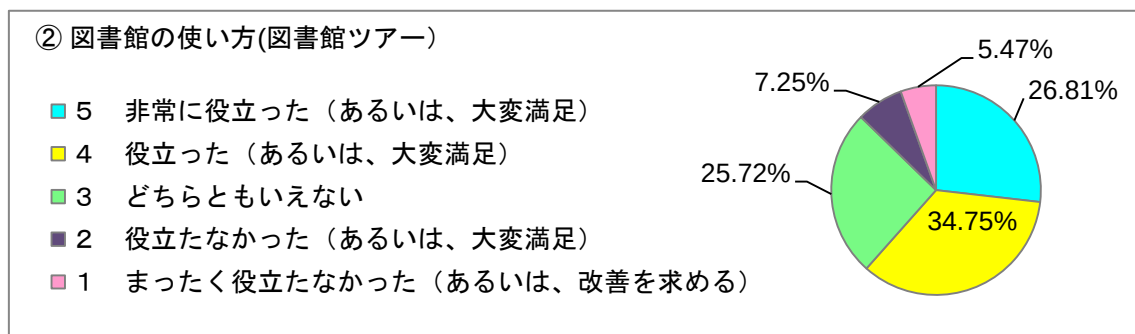
Q 1. 授業内容について：

全学部の回答を集計した結果、「本の読み方・文献検索」を除いたすべての項目で、「非常に役立った」および「役立った」と回答した者があわせて 50%以上であった。特に満足度の高い回答が得られた項目は、「大学院生・留学生・学部講師による講演会」であり、「非常に役立った」および「役立った」と回答した者を合わせると約 74%であった。「図書館の使い方」、「レポートの書き方」、「問題解決型授業、グループワーク」および「専門教育への導入的な授業」についても、役立ったと回答した割合が比較的高く、それぞれ、62%、63%、60%および 65%であった。一方、「本の読み方・文献検索」については、役立ったと回答した割合がやや少なく、約 42%であった。



受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

① が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：7.8 %

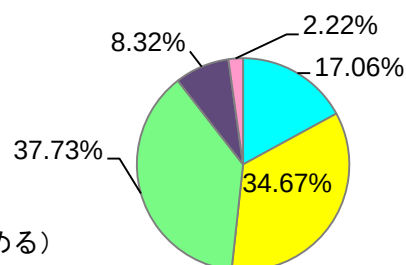


受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

② が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：10.7 %

③健康管理に関わる講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

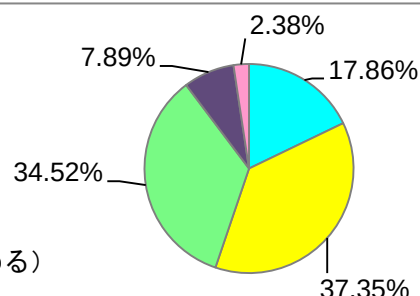


受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

③ が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：6.0 %

④ 防災・危機管理に関する講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

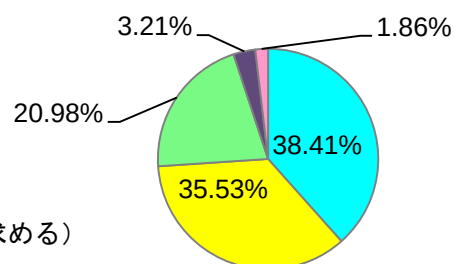


受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

④ が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：7.1 %

⑤大学院生、留学生、外部講師による講演会

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

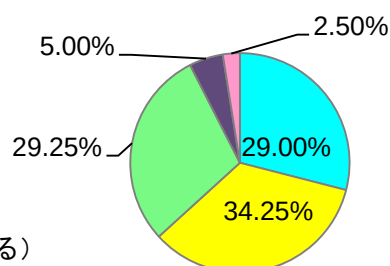


受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

⑤ が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：16.8 %

⑥レポートの書き方

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

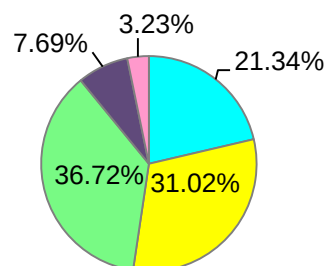


受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

⑥ が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：61.3 %

⑦日本語リテラシー（文章の書き方等）

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

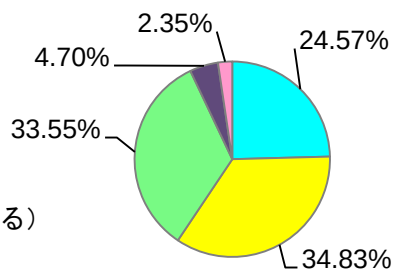


受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

⑦ が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：23.6 %

⑧発表・プレゼンテーションの仕方

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

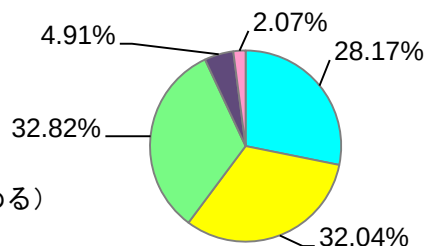


受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

⑧ が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：28.2 %

⑨課題解決型授業、グループワーク

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

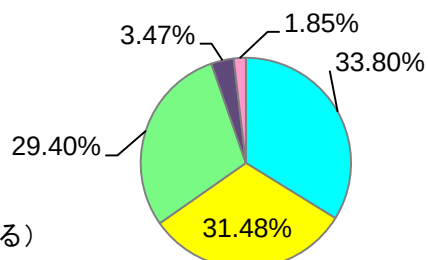


受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

⑨ が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：22.5 %

⑩専門教育への導入的な授業

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）

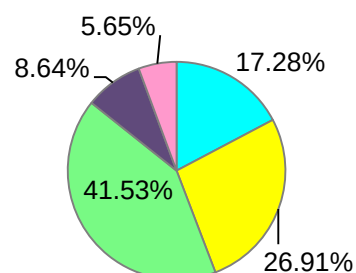


受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

⑩ が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：23.2 %

⑪本の読み方、文献講読

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、

⑪ が初年次セミナーには欠かせないと回答した割合：19.3 %

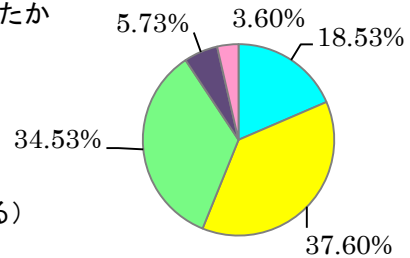
Q 2. 転換教育について：

このセミナーが高大転換科目として、「非常に役立った」および「役立った」と回答した者は合わせて約 56%であり、「どちらとも言えない」を回答した者が 35%程度であった。また、「役立たなかった」および「全く役立たなかった」と回答した者は合わせて約 9%であり、1 割の学生は転換教育の意義を見いだせていないことがわかった。

「非常に役立った」を 5 点、「役立った」を 4 点、「どちらとも言えない」を 3 点、「役立たなかった」を 2 点、「全く役立たなかった」を 1 点として平均スコアを算出すると、全学部を集計では“3.62”であった。各学部における平均スコアを同様に算出すると、教育学部は“4.15”、地域科学部は“3.92”、工学部は“3.44”、応用生物科学部は“3.49”であり、教育および地域科学部のスコアが高かった。

Q2 「初年次セミナー」を受講したことが、高校までの勉強のスタイルから大学での学修へと転換することに役立ちましたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



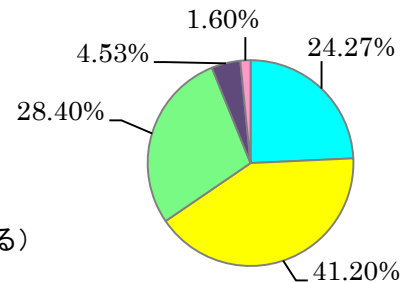
Q 4. 総合的な満足度：

この科目を受講した総合的な満足度は、「大変満足」および「おおむね満足」を合わせて約 66%であり、学生の満足度はおおむね良好であった。一方、「やや不満」および「改善を求める」と回答した者は合わせて約 6%であった。

上述した場合と同様に平均スコアを算出すると、全学部の集計では“3.82”、教育学部は“4.40”、地域科学部は“4.15”、工学部は“3.62”、応用生物科学部は“3.74”であり、教育および地域科学部のスコアが高かった。

Q4 このセミナーは総合的に満足のいくものでしたか

- 5 非常に役立った（あるいは、大変満足）
- 4 役立った（あるいは、おおむね満足）
- 3 どちらともいえない
- 2 役立たなかった（あるいは、やや不満）
- 1 まったく役立たなかった（あるいは、改善を求める）



5. 今後の初年次セミナーのあり方について

本稿では、アンケート調査から得られた全体のデータをさらに加工して分析を加え、表1～3にまとめた。

表1は、Q1の結果のうち、初年次セミナーに含まれ（う）る11の実施内容について、それらの有用度または満足度をたずねた結果を加工したものである。アンケート用紙には、回答のための選択肢が5つ設けられており、それらは、「非常に役立った」「役立った」「どちらともいえない」「役立たなかった」「まったく役立たなかった」であった。これらのうち、前二者、つまり「非常に役立った」と「役立った」のポイント数を合計したものを並べている。これは、新入生がどのような内容を、「役に立つ」と感じたのかを概観するために作成した。

表2は、Q1の後半に設けた質問への回答をまとめたものである。すなわち、あなたが受講した初年次セミナーでは実施されなかったが、初年次セミナーにはぜひ取り入れる必要があると思う内容について答えてもらったものである。新入生が、どのような内容を、初年次セミナーという科目に期待しているかを把握するために作成した。

表3は、11種類の授業内容の有用度、満足度について、「どちらともいえない」との回答に着目し、その出現が少なかった順に並べたものである。「どちらともいえない」の数が少ないことは、その内容の良し悪しや、その内容を初年次セミナーで取り扱うことの適否について、明確な判断が下されたことを示していると言える。

1). 役に立ったのは、どのような実施内容か？

表1 「非常に役立った」と「役立った」
の合計ポイントランキング

順位	項目	合計ポイント
1位	大学院生、留学生、外部講師による講演会	73.94
2位	専門教育への導入的な授業	65.28
3位	レポートの書き方	63.25
4位	図書館の使い方(図書館ツアー)	61.56
5位	課題解決型授業、グループワーク	60.21
6位	発表、プレゼンテーションの仕方	59.40
7位	キャンパス・ガイドを用いたガイダンス	57.16
8位	防災・危機管理に関する講演会	55.21
9位	日本語リテラシー(文章の書き方等)	53.26
10位	健康管理に関わる講演会	51.73
11位	本の読み方、文献講読	44.19

まずは表1を見てみる。多くの新入生が、役に立ったと判断した内容の筆頭にあがるの

は、「大学院生、留学生、外部講師による講演会」であった。用意した選択肢のうちの、「非常に役に立った」と「役に立った」を合計すると、そのポイントは 73.94%に達した。各学部学科が実際に、どのような大学院生、どの国から来ている留学生、あるいは、どのような仕事をしている外部講師を呼び、どのような話をしてもらったかは定かでない。しかし、新入生にとって、学内の先輩やその学部学科を卒業して社会で活躍するや OB・OG と、近距離で接することは、数年後の自分自身の姿をイメージできるという点で、学修への動機付けにつながるものと言えよう。また、後述するが、この「大学院生、留学生、外部講師による講演会」については、「どちらともいえない」の数値が最も低くなっており、新入生が感じた有用度、満足度が明確に判断されていることを示している。

役に立ったものとして二番手にあがった「専門教育への導入的な授業」（「非常に役立った」と「役立った」の合計ポイントが 65.28%）については、二通りの解釈ができると考えられる。一つには、新入生の多くが、各学部で展開される専門教育に対して、早い時期から強い関心を示していること。すなわち専門教科に対する強い学習意欲の現われてあると、肯定的に解釈する見方である。一方で、学部の専門教育科目ではなく全学共通教育科目として、かつ新入生一般の高大転換を目的として開講される本科目の趣旨や意図が、受講する新入生の側にも、ともすれば実施する教員側にもよく理解されていないのでは、と反省的に理解することもできる。

学士課程では教養教育に重きを置き、専門教育は大学院レベルで実施することが進んでいるアメリカと比べ、わが国の大学は、専門分野別に区分けされた学部が、早くから大きな存在感をもって志願者や入学者の前に立ち現れる。高校生は、大学のパンフレットを手にした時から、絶えず学部を意識し、オープンキャンパスや入学試験も学部を単位として実施される。このため、新入生は学部の専門科目により興味を示しがちであろうが、初年次セミナーの趣旨が、学修の高大転換であることを忘れないようにしたい。

2). 初年次セミナーに欠かせない内容とは何か？

表 2 「初年次セミナーには欠かせないと思う」
のランキング(実施への強い要望)

順位	項目	ポイント
1 位	レポートの書き方	61.25
2 位	発表、プレゼンテーションの仕方	28.21
3 位	日本語リテラシー(文章の書き方等)	23.57
4 位	専門教育への導入的な授業	23.15
5 位	課題解決型授業、グループワーク	22.48
6 位	本の読み方、文献講読	19.27
7 位	大学院生、留学生、外部講師による講演会	16.75
8 位	図書館の使い方(図書館ツアー)	10.67
9 位	キャンパス・ガイドを用いたガイダンス	7.84

10 位	防災・危機管理に関する講演会	7.14
11 位	健康管理に関わる講演会	5.96

表 2 にまとめた「初年次セミナーには欠かせないと思う」の結果からは、多くの新入生がレポートの書き方についての授業を強く望んでいることが明らかとなった。そのポイント数は 61.25% であり、2 位の、発表やプレゼンテーションの仕方 (28.21%) に 30 ポイント以上の差をつけた際立った値となっている。レポートを書くことは、大学における学修ならではの活動であるが、その重要さの割には書き方についての細かな指導に多くの時間が割かれていないのが現状である。この調査結果は、大学側のレポート作成指導に関する不足を、学生から厳しく指摘されたものとなっていると言えるだろう。これへの大学側の対応策としては、例えば、初年次セミナーとは別に、レポート作成に必要な知識の教授を、独立した授業として開講することや、正課外教育として、アカデミック・コア等でのライティング支援策の充実させることが考えられる。

表 2 については、6 位に入った「本の読み方・文献講読」にも触れておきたい。この項目も、回答者がこの問いをどう解釈したのかということや、それぞれの学部学科、担当教員が、具体的にどのような読書教育を実施したのかは明らかでない。しかし、役に立ったと思う度合いを示す表 1 では最下位 (11 位) と評価の低いこの項目が、学生たちにとって「欠かせないもの」として 6 番手の重要度で認識されていることは興味深い。このことから、実際に行われた「本の読み方、文献講読」の授業に満足はしていないものの、本を読むことの意義は認めており、できれば在学中にきちんと読書を習慣づけたいと考えている学生の存在が浮かび上がる。

読書の魅力をより多くの学生に知ってもらう試みとしては、教育推進・学生支援機構の学修支援部門や教養教育推進部門と協力関係にある学生団体、「岐阜大学教育企画立案学生チーム (愛称: E-Plus)」が企画・実施している読書会やビブリオバトルがある。平成 27 年度は同団体が主導して、ビブリオバトルをアカデミック・コアにて 3 回開催している。また、教育推進・学生支援機構の教養教育推進部門が、教養ブックレットシリーズの 1 つとして、『小説を読もう!』を刊行しており、こうした出版物を、初年次セミナーで活用することも有効な手段であろう。

「図書館の使い方」については、表 1 において役立ったランキングが 4 位と比較的高かったにもかかわらず、初年次セミナーに欠かせない内容かどうかについては 8 位と低かった。能動的な学習に図書館の活用は欠かせないと考えられるが、学生がその必要性を感じられるような図書館ツアーにするため、今後の改善が必要であろう。自由記載欄の意見にも、図書館ツアーに対する不満を記載していた学生は多かった。特に、開催時期が 6 月の終わりにまですれ込む工学部については、開催時期の改善を含めた改善を求める声が強かった。今年度には、図書館 1 階にアカデミック・コアが設置されたこともあり、初年次教育担当会議では、図書館を有機的に使用するための新たな図書館ツアーを企画し、次年度に実施する予定である。

3). 実施内容の適否を判断することの難しさ

表3 「どちらともいえない」
のランキング(昇順:実施することの適否が明確)

順位	項目	ポイント
1 位	大学院生, 留学生, 外部講師による講演会	20.98
2 位	図書館の使い方(図書館ツアー)	25.72
3 位	レポートの書き方	29.25
4 位	専門教育への導入的な授業	29.40
5 位	課題解決型授業, グループワーク	32.82
6 位	発表, プレゼンテーションの仕方	33.55
7 位	防災・危機管理に関する講演会	34.52
8 位	日本語リテラシー(文章の書き方等)	36.72
9 位	キャンパスガイドを用いたガイダンス	36.95
10 位	健康管理に関わる講演会	37.73
11 位	本の読み方, 文献講読	41.53

表3は, アンケート用紙に記されていた11の実施内容について, それぞれ寄せられた「どちらとも言えない」の数値を, 少ないものから順に並べたものである。つまりこの表は, 受講生から見て, 実施することの適否の判断が明確なもののランキングとなる。

ここでも首位にあがったのは, 「大学院生, 留学生, 外部講師による講演会」であった。表1に示した「役に立った」もののランキングでもトップとなった実施内容である。表1を踏まえたこれらのデータからは, この内容が多くくの学生に支持されていることが分かる。しかし同時に, それほどまでに学生に人気のある内容であれば, 必ずしも正規の授業の中で実施する必要はなく, 課外活動として提供しても十分需要が見込めるとの見方もできる。9位にキャンパスガイドを用いたガイダンスが, 10位には健康管理に関わる講演会があがっている点からは, 学生は, 初年次セミナーの趣旨が学修面での高大転換であることをある程度理解しており, それゆえ, これらの内容がその趣旨に照らして適切か否かと迷っているとの解釈も可能である。

表1で, あまり役に立たないと判断された「本の読み方・文献講読」については, 実施することの適否も明確に判断することができないでいる。

4). まとめ

初年次セミナーおよびその前身科目については, これまでに, それぞれの学部, 教養教育推進センター, そして教育推進・学生支援機構学修支援部門と, 異なる複数のステージで議論されてきた。このような, 主導権の担い手や組織の移り変わりが, この科目の性格を迷走させてきた感は否めない。複雑な来歴を経る過程で, いつしか, 「新入生にとって大事だから取り入れる」あるいは, 「受講生からの評判が良かったので, 良い授業である」といった理解につながっていったことはなかっただろうか。

言うまでもなく初年次セミナーは, 現時点において本学の全学共通教育科目であり, 高校から大学への転換を志向する科目である。その方針に則った改善を進めていくべきであ

ろう。そして、受講生に対してこの科目の趣旨を理解させる機会を設けることが望ましい。

高校と大学の間における転換を志向するのであれば、なによりもまず、高校と大学の間には、はたしてどのような接続上の課題が存在するのかを明らかにして、それを受講生と教員の双方が理解することから始めたい。わが国の法律では、小学校から中学校への接続、および中学校から高校にかけての接続は、高校と大学間のそれに比べると明瞭であると言える。しかし、高校と大学に関して言えば、それは明文化されておらず、大学教育の準備として高校教育があるのか、高校教育以後の積み上げとして大学教育が存在するのかが、未だ明らかでないことにも留意する必要がある。

一例として、大学における学修では事実上必須となるワードやエクセルといったソフトの使い方については、高校でその教授が必修化されていない。従ってこのことは、高校・大学間の接続や転換における“クレバス”として新入生の前に現れてくる。このクレバスに橋をかけることは、学習指導要領によって教育内容が拘束・限定されている高校よりは、入学者選抜の自由を持ち、柔軟な教育課程を編成することができる大学側の役目とされ易いのである。この他にも、類似の課題があると考えられるが、初年次セミナーの改善に向けては、本学に入学してくる新入生の、高校までの学習歴の分析も同時並行で進めていきたい。

6. 参考資料

下記の資料は、2015 年度に学習支援部門・初年次教育担当会議により企画された FD 研究会の開催案内および FD 参加者に実施したアンケート結果を示す。

学修支援部門(初年次教育担当)FD

「どうする！？ 初年次セミナー」

日時:平成28年2月3日(水) 15:00~17:00

場所:全学共通教育棟 アクティブラーニング教室

趣旨:学修支援部門・初年次教育担当会議では、全学共通教育科目として開講されている「初年次セミナー」のあり方について、平成26年度より検討を進めております。平成26年度には、この科目を担当している教員・コーディネーターの方を対象としたアンケート調査を実施し、より良いセミナーにするためにはどのような内容が適切か、現行のセミナーの問題点は何か、について実態を把握いたしました。また、平成27年度には受講学生を対象とした調査を実施し、学生の視点から見たこの科目の満足度及び今後改善すべき点について分析いたしました。

今回のFDでは、これらのアンケート調査結果及び初年次教育担当会議にて議論した内容を報告するとともに、学部での取り組み事例として応用生物科学部の初年次セミナーを取り上げ、これまでの改善の取り組みや工夫している点について紹介していただきます。これらの報告を基に、今後のセミナーのあり方について議論を深めたいと思います。

プログラム:

15:00 開催挨拶

江馬 論(教学・附属学校担当理事/機構長)

15:10 FDの趣旨説明

廣内大輔(教育推進・学生支援機構/学修支援部門)

15:20 初年次セミナーのアンケート調査から見てきたこと

海野年弘(学修支援部門副部門長/初年次教育担当)

15:50 これからのセミナーをどうするかグループ討論

16:20 初年次セミナー改革の試みー応用生物科学部の取り組みー

杉山 誠(応用生物科学部・副学部長)

16:50 閉会挨拶

加藤直樹(副機構長/学修支援部門長)

司会進行

廣内大輔(教育推進・学生支援機構/学修支援部門)

主催:教育推進・学生支援機構 学修支援部門(初年次教育担当)

平成27年度 教育推進・学生支援機構 学修支援部門（初年次教育）
FD研究会「どうする！？ 初年次セミナー」 アンケート結果

教育推進学生支援機構学修支援部門
初年次教育担当

平成28年2月3日（水）15:00～17:00

参加者：38名（アンケート記入者：15名）

1. 本研究会の満足度はいかがでしたか。

- ・とてもよかった・・・・・・6名
- ・よかった・・・・・・・・・・9名
- ・あまりよくなかった・・・・0名
- ・よくなかった・・・・・・0名

2. 「初年次セミナーのアンケート調査から見えてきたこと」に関し、感想等をお書きください。

- ・話題はよくわかった。
- ・他学部の状況がわかった。
- ・「学修の高大転換教育科目であるべきである」はある程度は納得できるが、「接続」という視点も必要ではないかと思う。
- ・高大転換の必要性として「読む・書く・話す」「能動的な学び」を設定しているので、それらを達成できるような科目を検討すべき。
- ・授業計画案10項目の見直しと全学的な合意があると良いと思います。
- ・内容の分析が今後の課題となると思われました。アウトカムとして何を観るかが難しいと思われます。
- ・英語や文献調査の仕方、岐阜に絡んだ内容の不足には自分も納得がいく。重要度調査の結果にもあるように、周りの先生も行っていないため安心してしまっている。学生の評価結果も参考にして、次年度の内容・進行等について検討したい。
- ・「学生の満足度の高い内容」と「是非、学生に提供したい内容」とは必ずしも同じではない。
- ・学部別にさまざまで、ちょっと難しい所がある。教養部時代の教養セミナーの意義（学部を超えて学生が交流できる）も伝えておきたかったことです。すぐには成果があがるものでもないので、もっとゆるやかで且つ継続するような方法も考えたいです。
- ・教員、各学部・学科の学生が、どのように「初年次セミナー」を捉えているのかが、よくわかりました。また、問題点・改善点が明らかになり、今後のあり方について考えることができたと思います。
- ・学部縦割りの初年次セミナーの中に如何に共通の基本的事項を盛り込むか、また、盛り込めるかの問題であると思いました。

3. 初年次セミナーについて、どのようなねらいを持って講義されていますか？
また、そのねらいを達成するために特に工夫しておられることがあれば、お書きください。

- 担当していない。
- 読む・書く・調べる。
- 意識改革。
- 講義していません。
- このFDに適して設問??
- 自ら課題を見出して、それを解決するためのアプローチの方法・内容を調べて、最終的なまとめや結論を出す点。その過程において、他者と討議して、批判し合い、失敗・うまくいかないことも多く体験してもらう。
- 大学生活における人間力の養成（これは、生涯における人間力向上につながるべき。）
- 教養部時代は担当していました。1年生は新鮮でおもしろかったです。毎年、テストやテーマを変えながら楽しんでいました。
- 大学での学修を上手く始められるための機会として考えています。

4. グループ討議で得られた、今後役立ちそうな知見がありましたら、お書きください。

- 20分ではまとめきれない。
- 機構のリーダーシップが必要。
- 学生相互の支援体制づくりで初年次セミナーを補完する。
- 大学では、社会に出て必要な能力を高めるべきという意見が参考になった。（社会では正解がない世界を生きていくことや失敗から学ぶこともあるなど）
- 学部の上級生・大学院生などを講師とする。学生間の能力差を実感させない授業の内容・方法・タイトルの工夫。
- 小中～高校～大学のつながり（切断）、学部間の連携など、もう少しテーマを絞ってワールドカフェでもしてみたいです。
- 院生のTAとしての活用。しかし、現実的には難しい。（TAの訓練が必要のため）

5. 「初年次セミナー改革の試みー応用生物科学部の取り組みー」に関し、感想等をお書きください。

・改革の必要性・経緯・目的・実施計画・評価・改革案が完璧にまとめられたいい内

容であった。

- ・大変参考になりました。
- ・すばらしかった。失敗部分も含めて全てが貴重なデータですね。
- ・非常に素晴らしい取り組みだと思いました。今後もこのように各学部

の取り組みを

紹介する機会が必要だと思います。

- ・一例とせずに全学への拡張などを検討すべき。
- ・良い具体例でした。
- ・専門の教員を雇用すべき。教養部を復活させるべき。T Aに意見を出してもらうのも参考になるかも。
- ・進め方として見習うべきことが多い。
- ・参考になりました。
- ・学部の課題を詳細に分析し何が起こっているのか、どう対処していくかを学部一丸となって取り組んでいる。全ての課題に取り組むのではなく、取り組めそうな所から取り組むということの重要性を再認識した。明確な目的・目標・設定・評価の視点の工夫も重要。
- ・地域科学部の「地域研究入門」では、学生とのQ & A、教員同士のパネルトーク、ワークショップなど、できるだけやり取りしながら理解を広げ深めていく方法をやっています。
- ・教育改善室を設けて、実際の改革プロセスを知ることができ、興味深かったです。また、T A・S Aの活用やレポートの作成・ノートティキング等、有益な情報だったと思います。
- ・素晴らしい取り組みであると思いました。

7. おわりに

平成26年度に実施した初年次セミナーの担当者に対するアンケート調査、ならびに今年度を実施した受講学生を対象にしたアンケート調査から、本セミナーにおけるいくつかの問題点が明らかになってきた。初年次教育担当会議では、これらの調査結果を基に議論を重ね、本セミナーの位置づけとして、「学習の高大転換教育をめざした全学共通教育科目」ということを今一度意識してほしいと考えている。

今後、各学部において本セミナーの実施内容が検討され、より良いものに改善されていくことを期待している。最後に、アンケート調査にご協力いただいた各学部のセミナー担当者ならびにコーディネーターの先生方に深謝いたします。

学修支援部門・初年次教育担当会議

部門長	加藤 直樹（総合情報メディアセンター）
専任教員	廣内 大輔（教育推進・学生支機構）
初年次教育担当会議委員長	海野 年弘（応用生物科学部）
初年次教育担当会議委員	根岸 泰子（教育学部）
初年次教育担当会議委員	近藤 真（地域科学部）
初年次教育担当会議委員	竹下 美恵子（医学部）
初年次教育担当会議委員	森田 洋子（工学部）
初年次教育担当会議委員	今福 輪太郎（医学教育開発研究センター）
事務担当	黒柳 和久（学務部教務課）
事務担当	佐藤 晃（学務部教務課）



教育推進・学生支援機構 ORPHESS [オルフェス]
Organization for Promotion of Higher Education and Student Support